

8月1日 オープンスクール

「口加高校とは」

この4月から口加高校の校長として着任いたしました狩野と申します。

大変お忙しい中、また暑い中、昨年より約80人も多い約200人の皆様方にご参加いただきました。本当にありがとうございます。これも口加高校への期待だと肝に銘じ、今日のオープンスクールに向けて、できる限りのおもてなしで皆様をお迎えをしたいという一心で、生徒、教職員、保護者の皆様方と準備を進めてまいりました。精一杯頑張りますのでよろしくお願いいたします。

まず前方のスクリーンをご覧ください。ここに6種類の植物の種があります。種と言っても、色、形、大きさは皆違います。これからどんな芽が出て、どんな葉っぱが茂り、どんな花が咲き、そしてどんな実をつけるのか、この段階では誰もわかりません。この種が芽を出すには、土壌が必要です。そして人が水をやり、肥料をやり、また太陽の光を浴びて、大切に育てられて成長します。

やがてこの一粒の小さな種は、それぞれこんな立派な実をつけます。それぞれが種類も、形も、色も、味も、栄養も違う、個性を持った果物や野菜です。ここにならんだ野菜や果物に優劣がありますか。ありませんよね。比較することに意味がありますか。ないんです。

次は、ここに6人の高校生がいます。それぞれが個性や能力、才能や可能性を持った若者たちです。これからどんな青年に、どんな大人に成長していくかこの段階では誰も分かりません。本人も分からないはずです。人にも育つ土壌が必要です。それが学校です。水や肥料や太陽の光も必要です。それが教育です。水や肥料を誰が与えるのか。それは教師です。

皆さんはいくつかオープンスクールに行ったかもしれません。どの高校にも体育館や理科室や図書館やパソコン室はあります。遠足も体育祭も文化祭も修学旅行もあります。施設や行事にほとんど違いはありません。では、何が違うのか。皆さんが育つ土壌である学校にとって最大の資産は何か。それは教師です。手前味噌ですが、口加高校の教職員は私の自慢の教職員ばかりです。平均年齢は40歳。長崎県の県立高校の教員の平均年齢は45歳ですので、若いスタッフがそろっています。今日は、口加高校のスクールカラーであるオレンジのポロシャツを着ていますので、お気軽にお声をおかけください。オレンジは明るさの象徴であり、前向き、ポジティブ、チャレンジ精神の象徴です。私たちはこの口加オレンジに誇りを持っています。

前のスクリーンに話を戻します。この高校生たちには、それぞれ夢や目標が

あり、将来、それぞれのフィールドで生きていきます。

そして、こんな立派な大人、社会人になっていくのです。この人たちに優劣がありますか。ありませんよね。比較することに意味がありますか。ないんです。でも、人はすぐに他人と比較したり、優劣を決めたりします。解散しました。スマップの歌に「世界に一つだけの花」というのがあります。それは「一人一人違う種を持つ。その花を咲かせることだけに一生懸命になればいい」と歌っています。そうなんです。皆さんが抱く夢や目標には優劣はないんです。

その皆さんの夢を語りに口加高校に来ませんか。皆さんの夢や目標を達成するために口加高校に来ませんか。私たちは、生徒に愛情を注ぎ、とことん寄り添い、進路目標を達成させる、そんな口加高校でありたいと思っています。生徒たちの頑張りに全力で応える教師でありたいと思っています。

お手元に私の名刺をお渡ししています。メールアドレスに黄色のマーカーをつけています。何かご質問があればいつでもメールをいただきたいという意味です。直接校長には失礼だという遠慮はまったく不要です。なぜならば校長は誰のためにいるのか、それは生徒や保護者の皆さんのためにいるんです。中学校の先生方もお気軽に、どんな些細なことでも結構ですのでご連絡ください。

進化論で有名なチャールズ・ダーウィンは言いました。「最も強いものが生き残るのでも、最も賢いものが生き延びるのでもなく、変われるものだけが生き残るのだ。」時代が大きく変わろうとしています。時代に応じて変われる学校だけが生き残ると思っています。来年創立117年目を迎える口加高校も変わります。来年入学してくる皆さんと新しい歴史を創っていきたいと思っています。それが口加高校のリニューアル宣言です。

カナダの心理学者エリック・バーンは言いました。「他人と過去は変えられないが、自分と未来は変えられる」

来年4月8日が口加高校の入学式です。自分と自分の未来を変えようとする皆さんを、私は校長として皆さんをこの体育館で迎えたいと思います。

これからも生徒、保護者の皆様、教職員一丸となって、口加高校、頑張ります。本日はようこそお越しくださいました。